

## 第11回 常総市総合教育会議 会議録

【日 時】 令和6年2月20日（火）午後3時30分～4時40分

【場 所】 常総市役所3階 庁議室

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 協議・報告事項
  - (1) AIまちづくりについて
  - (2) 地域部活動について
  - (3) カーボンニュートラルの取組みについて
- 4 その他
- 5 閉会

### 出席者

教育委員：岡野克巳教育長，秋田敏雄委員，倉持好一委員，荻根文江委員，中山奈央委員

常総市：神達市長，石井副市長，飯泉市長公室長，森田教育部長，西村学校教育課長，平塚課長補佐，大崎係長，  
中澤指導課長，吉原指導主事，沼尻生涯学習課長，斉藤生涯学習課スポーツコミッション室長，秋田生活環境課長，  
江面生活環境課ゼロカーボン推進室長，宮地商工観光課観光推進室長，富山係長，  
間宮常創戦略課長，小川課長補佐，松永主幹，土田主幹

## 1 開会（15：30）

常創戦略課長 本日はお忙しい中ご出席くださいます。誠にありがとうございます。ただいまから第11回常総市総合教育会議を開催いたします。本日の進行を担当いたします。常創戦略課の間宮と申します。よろしくお祈いします。昨年度から教育委員の方の変更はございませんが、あらためてこの会議の背景等をご説明させていただきます。総合教育会議は、国で教育委員会制度の見直しが行われ、平成26年の通常国会において「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が可決・成立したことにより、各自治体に設置されました。この法律改正により、各自治体は、総合教育会議設置のほか、教育委員長職の廃止と教育長の権限強化、教育に関する大綱の策定などが行われました。総合教育会議は、市長と教育委員会で構成され、会議の中で重点的に講ずべき施策や、子どもを取り巻く様々な課題について協議・調整を行うことで、市政や教育行政の様々な問題に対して効率的に取り組むことができるものとなってございます。それでは、協議に先立ちまして、神達市長よりご挨拶をお願いいたします。

## 2 市長あいさつ

市長 総合教育会議にお集まりいただきましてありがとうございます。教育委員のみなさまには常総市の教育行政に対し様々な御支援、御助言いただいていることに改めて感謝申し上げます。平成26年から制度改正ということでやっています。背景としては教育再生首長会議というのを文科省で定期的に開催しています。教育行政と一般行政のかかわり方を見直すべきだという提言からこの制度改正になったと伺っています。常総市の夜間学級の取組みが注目されていて講演をしました。今、令和型日本教育という大変革の時であります。部活動の地域移行、カーボンニュートラル、また常総市のAIまちづくりについても今の子供たちが社会人になるときはAIとの共生真っ只中になる。ありとあらゆる部分でAIとの共生をどうするか、我々よりも子どもたちの方が実感していると思います。今後も加速度的に教育が変わっていくことを考えながら、常総市で少しでも多く教育を受けたいと思う子どもたちが一人でも増えるよう、どうすべきか考えなくてははいけません。前回も同じテーマを扱いましたが、それからの進捗含め委員の皆さんから率直な意見を伺いたいと思います。どうぞよろしくお祈いします。

## 3 協議・報告事項（1）AIまちづくりについて

商工観光課室長 （資料に基づき説明）

市長 AIまちづくりという大きなタイトルでまちづくりをしているのは全国で常総市だけと伺っています。他社でまちづくりの一端を担っている事例はありますが、自動運転だけでなくAI×教育やAI×農業、AI×公共交通など様々な面で市民が主役になるAIまちづくりを目指しています。子どもたちの人口減少が常総市の何よりの課題であり、特に子育て世代や子どもたちが減っていま

す。若い人が「常総市に行ってA Iの教育を受けよう」とか「新たな産業を興そう」など、これらの発信をホンダさんと組むことで様々な課題解決に寄与できると考え取り組んでいます。市内の商工事業者のみなさまから聞く声として「商売が繁盛していても人手がない」「依頼はあるが人がいなくて作れない」という声を聴きます。交通や物流の面では 2024 年問題で働き方も含め大きな変革が起きています。常総市の子どもたちが活躍する時代に、技術者になったり、AI を活かして既存の農業を復活させてもらったりなど常総市からできればありがたいという思いで進めています。御意見や御質問があれば伺いたいと思います。

倉持委員 私もA I体験をやりたいのでぜひお願いしたいと思いました。前回の会議でA Iまちづくりの話聞いた。その時は具体的なイメージが湧かなかった。今回の会議で具体的な話を聞いて、初めてイメージが湧きました。小学生もA Iという言葉だけが独り歩きしていて、実際のイメージは分からないのではないのでしょうか。常総市内の小学生を対象に実際に乗車体験をしてもらい、スマホで呼べば車が来るんだよというのを体験させることで、常総って最先端の技術を使ってすごいんだと夢と希望を持てる、郷土を誇れる子どもができるのではないかと考えます。農業体験についても、特に年配者はA Iが農業分野で何ができるのかと思うので、地域や地区ごとなどに見学会の機会を設けていただければ良いかと思いました。

市長 一般の方の乗車体験が始まったので、教育委員の皆さまや学校関係者の体験についてスケジュールをぜひ組んでほしい。

教育長 素晴らしさを理解していただけた。明日も教員アカデミーで先生が体験していただき、子どもたちへ夢を語れるようにする。現実的に協力してやっていきたい。

市長 水海道第一高等学校附属中学校との取組みもホンダさんとやってもらった。

商工観光課室長 その際にはAI とカーボンニュートラルを考えた。関係企業としっかりと連携していく。

市長 今はキュウリの収穫が遠隔操作でできるため、学校にいながらきゅうりの収穫ができます。市内 13 校の全小学校学校対抗でゲーム性にするなど実際に楽しみながら農業や食育など教育に繋げていくこともできるかもしれません。

荻根委員 色々なお話を聞かせて頂いたが、10 年～20 年、または私の孫の世代、とすぐに結果が出るものでなく、長いスパンで考えないといけません。夢があり魅力的なものがある一方でそういったことに乗れない子どもや高齢者の方が出てくるかもしれません。その歪みの部分も並行してサポートしていただきたいと思いました。ハード面と同時に、メンタルの部分を見てほしいと感じました。

市長 荻根委員が仰るようにA Iは生活弱者にとってどういうメリットがあるのかということも入れてほしいです。これで便利になる反面、そのように感じる部分もある。生活弱者や高齢者のために何ができるか具体的に入れることで親近感が出てきます。

教 育 長 小学生の場合は、孫からおじいさんやおばあさんへと言うのは有効なツールになると思います。

倉 持 委 員 私はワポチに興味を持った。実際に見に行きました。学校の先生にアナウンスすれば若い先生はすぐに興味を持つ話題だと思いました。一人暮らしの方がたくさんいて、カスミの移動販売車で買っても家まで運べない高齢者もいます。目を広げれば、もっとみんなが住みやすく便利になりますよね。私の家族も今みんなバラバラに住んでいますが、仕事がネックになり常総から出ていったきりになってしまっています。道の駅で労働人口が増えたと思いますが、民間だとなかなか戻ってこれない。小学生あたりから常総市の魅力を伝え、理解が進めば将来変わってくるのではないのでしょうか。何もしないと何も生まれません。

市 長 教育長はよく、地域で貢献できる子どもを育てたいと仰っています。常総市へ戻ってきてもらうためにも、魅力ある仕事を作る意味でも、このA I まちづくりが大事だと思っています。

## 協議・報告事項（2）地域部活動について

スポーツコミッション室長 （資料に基づき説明）

市 長 我々が小学校の時には考えられなかった現実があります。部活が選べない、もしくは部活があってもチームが組めない、試合ができない。その解決策として部活の地域移行が国策として出てきました。協力者もでてきたが課題はまだたくさんあります。教育委員の皆様にもご意見賜りたいと思います。

中 山 委 員 息子が二人中学校でサッカー部、引き続き高校でもサッカー部にいますが、部員不足を実感し、活動をするのは大変です。このような地域クラブ化は賛成ですが、高校の部活ではクラブチームに行っていた子どもが戻って部活で活動する子が多くいます。そうなるとクラブチーム出身の子が試合に出ることが多いです。地域部活動によって部活動が縮小されるのではなく、高校でも子どもたちの活動が維持できるようにしてほしいと思います。

教 育 長 県はようやく文科系にも目を向けた状況です。しかし私の実感としては指導者不足。これを人事に活かすことは現実困難です。課題を基に今動いているところであります。

市 長 部活動の地域移行は単独市町村の単位では無理ではないかという意見もあります。近隣で広域化しないと、受け入れ先を探すだけだと持続可能性がありません。例えば、一人のサッカーの先生が今はいたとしてもその先生が異動したらどうするのか？という話になってくる。部活動が長い間続いてきたのは、学校教育の制度の中に入っていたからです。地域移行したときに、いつまで持続可能性をもってクラブチームを運営してくれるのかが、保護者も我々も心配です。常総市単独であれば10年くらいもつかもかもしれませんが、例えばその監督が突然病気になったときに、クラブの運営や子どもたちはどうするのか心配な部分がありますから、もう少し大きな組織体で連携しないと

難しいのではないかと思います。

荻根委員 教育は本来対面が良いと思っていますが、今後は部活動の中にもA Iなども活かして、遠隔で指導受けられるなど、教わるだけでなく自ら学べるような子どもたちを育てるという感覚で前向きに捉えたほうが良いと思います。これまでの部活動とガラッと変えていかないといいません。「厳しい」とか「ただ強くなる」とか「試合に勝つ」といった目的だけでないマインドへ変えていかないといいないと思います。

スポーツコミッション長 先生も異動があるため、地域の方が付いた方が持続可能ではないかと考えています。平日も地域移行を国は検討しているが、まずは休日の移行に向けて考えています。

市長 A I×教育を実現できそうです。先生に教わるだけでは強くなれません。自分でコツコツやるのは大事ですね。例えばA Iで自主練メニューを出してもらっても可能になるのではないのでしょうか。

### 協議・報告事項（3）カーボンニュートラルの取組みについて

生活環境課 （資料に基づき説明）

市長 委員の中に専門家がいるので、ぜひ秋田先生から講評をお願いします。

秋田委員 クールビズやウォームビズは知っている方は多いですが、クールチョイスを知っていますか？各学校で聞いても先生も知らない方が多いです。2020年7月に常総市は気候変動に関する宣言をしましたが、ゼロ・カーボンシティ宣言を知っている市民は多くないのが現状です。すそ野を広げるためにも一般の方向けに地球温暖化の現状を知ってもらいたいと思います。茨城県では毎日取り組めてお金に換算するとこれだけ、二酸化炭素に換算するとこれくらいになると示した茨城エコスタイルを提唱しています。日本は世界で5番目の二酸化炭素排出となっていますが、一人当たり年間8トンを超えています。これを減らしていくためこれから対策が必要です。私が所属しているのがエコレンという団体ですが、子どもたちに小さい頃から地球温暖化について話をしたあとには、廃ガラスなどを使った作品づくりをしています。我々が使っている石油は今のペースだと50年くらいで枯渇してしまいます。目を向けて貰うための活動をしているのです。日頃の生活の中で継続的に持続的に意識してもらいたいと思っています。

市長 環境を考えることは根本的に一番良い教育であると思っています。今さえ、自分さえ良いわけでない。次の時代のために、今生きる世代が取り組むというのは教育に繋がってくると思っています。今後も教育委員の皆さんに常総の教育の発展にお力添えをいただきたいと思っています。本日はありがとうございました。

## 5 閉会（17：05）